

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名 田中正造関係資料購入事業		本年度担当課	文化財課			
		前年度担当課	文化財課			
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり	新規・継続	継続事業		
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり	実施計画・一般	一般事業		
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承	市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進	任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名		事業 区分	実施方法	直営
	一般	10	04	04 田中正造関係資料購入事業	事業分類	その他内部事務事業
事業計画		事業期間	平成25年度 ~ 令和5年度			
根拠法令・条例等						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方) 田中正造翁没後百年顕彰事業の一環として、田中正造の行動と思想を後世に伝えるため、没後百年となる平成25年度から当面の間(10年間)、葉書、書幅等正造資料を継続的に購入し、正造翁の偉業を顕彰する。		令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
		田中正造書簡等の購入								
		活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
		購入資料数	点	0	1					
寄贈資料数	点	0	1							
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
正造関係博物館収蔵資料		対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
		正造関係博物館収蔵資料		点	14,292	14,294				
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
正造ゆかりの博物館として、正造関係資料を継続的に購入し、博物館収蔵資料数の拡充を図る。		成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		正造関係収蔵資料数/ 収蔵資料数		%	目標					
					実績	36.4	32.1			
				目標						
		実績								
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		博物館、化石館、伝承館の入館者数		人	目標		55,500			
					実績	24,976	36,905			
		学校利用(出前講座含む)実績		人	目標		4,100			
実績					4,086					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	120	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	120	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					備品購入費	120		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	0	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	120	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	田中正造関係資料購入事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館は、昭和58年11月に開館し、正造関係資料については約14,000点程収蔵しているが、近年、財政的な理由から正造関係資料を購入できない状況となっていた。そのため、田中正造翁没後百年となる平成25年から顕彰事業の一環として、継続的に購入す
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	東日本大震災等による原発問題や環境問題への関心が高まっているとともに、没後百年を契機として、正造翁の偉業を顕彰する重要性が深まってきている。美術品や正造関係資料については、景気の低迷に伴い、以前と比べて比較的安価な値段で市場に出回っているため、購入しやすい状況にある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	一般市民等から、正造資料を博物館で購入して欲しいとの話が時々ある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
少ないが資料を購入することができた。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
田中正造関係資料は、何時入手できるかわからない。そのため今年度は購入できたが、日頃から準備が必要である。		顕彰事業の目的である「正造翁の偉業を広め、永く後世に伝える」ためには、継続的に資料収集を行うことが必要であるため、10年という一定期間の購入計画を立てている。正造関係の資料は、市場に出回っているためすぐに事業終了となることは考えられない。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 指定管理事業へ移行	
	中		○		
	小				
	大 中 小 成果向上余地				

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土博物館受電設備改修事業				本年度担当課	文化財課	
						前年度担当課	文化財課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	新規事業	
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	04	04	郷土博物館受電設備改修事業	事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度のみ		事業期間	令和4年度 ~ 令和4年度		市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等								

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
郷土博物館は昭和58年開館の施設であり、開館以来使用している受電設備等は老朽化している。さらに平成30年度の調査で低濃度PCB(ポリ塩化ビフェニール)が使用されている変圧器が確認された。他にもPCBを含む可能性があるコンデンサもあり、新しい機器と交換して、PCB含有機器を適正に廃棄することにする。				・受電設備改修工事の実施						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				改修工事	件		1			
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
施設・設備 市民及び市外からの入場者 収蔵資料				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				敷地面積	m <sup>2</sup>		7,470			
				入館者数	人		14,370			
				収蔵資料数	点		44,477			
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
建物・機械設備等を維持・管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を保つ。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				適切に収蔵されている資料数/収蔵資料数	%	目標	100			
						実績	100			
						目標				
						実績				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	目標	55,500			
						実績	36,905			
				学校利用(出前講座含む)実績	人	目標	4,100			
						実績	4,086			

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	3,773	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	3,773	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					工事請負費	3,773		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.01	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	73	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	3,846	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土博物館受電設備改修事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成31年3月、郷土博物館の受電盤安定器を確認したところ、PCBが含まれていることを確認された。また、それ以外の受電盤設備も老朽化しており、早急な対応が必要になった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	法律で、PCBが含まれている安定器は令和5年度までに、改修工事を行って処分する必要がある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
平成4年度は、PCBが含まれている安定器や他の老朽化した機器の更新工事を実施した。		法律で決められた令和5年度で、PCBが含まれている安定器を処分する必要がある。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	大 中 小 成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土博物館維持管理事業				本年度担当課	文化財課		
						前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業		
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業		
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意の事業		
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営		
	一般	10	04	04	郷土博物館維持管理事業	事業分類	施設維持管理事業		
事業計画		事業期間		昭和58年度 ~				市長公約	該当なし
								総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 博物館法、佐野市立博物館条例									

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）			令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
郷土博物館の維持管理を行い、利用者に良好な環境を提供する。また、資料の収集や保存、展示に良好な環境を整える。			<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の維持管理に係る照明器具等の消耗品の購入</li> <li>常設展借用資料に対する賠償責任保険、火災保険等に参加</li> <li>収蔵庫のくん蒸業務委託。</li> <li>空調機器、給排水設備、消防設備等の保守点検及び館内清掃・警備業務の委託（年間）</li> </ul>							
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
			業務等委託件数	件	11	11				
			修繕件数	件	5	6				
収集資料数	点	39,239	44,477							
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
施設・設備 市民及び市外からの入館者 収蔵資料			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
			敷地面積	m <sup>2</sup>	7,470	7,470				
			入館者数	人	7,785	14,370				
			収蔵資料数	点	39,239	44,477				
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
目的	①建物・機械設備等を維持・管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を保つ。			成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	②利用者が、安全で快適に施設を利用できる環境を保つ。			適切に収蔵されている資料数/収蔵資料数	%	目標 100	実績 100			
				入館者/市民人口	%	目標 6.7	実績 12.4			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	目標 24,976	実績 55,500	36,905			
			学校利用(出前講座含む)実績	人	目標 4,100	実績 4,086				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	305	0	0	0	0	
	一般財源	千円	7,342	9,854	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	7,647	9,854	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	4,345		
					需用費	3,113		
				報酬	1,661			
				職員手当等	196			
				共済費	191			
				役務費	181			
				使用料及び賃借料	103			
		その他	64					
人件費	職員従事工数	人工	0	0.28	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	2,040	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,647	11,894	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土博物館維持管理事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年11月の郷土博物館の開館に伴い、利用者が安全で快適に施設を利用できるように、施設や設備を維持・管理して、展示室や収蔵施設の最適環境を保つために開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	昭和40年代から全国で多くの博物館や美術館が建設されたが、現在それらの施設の老朽化が進んでいる。当館も開館してから32年が経過し、施設の修繕箇所も増えている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
施設を維持管理するに関する事業のため			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
施設の維持管理に関する事業のため		博物館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 指定管理事業へ移行	
	中		○		
	小				
	大 中 小 成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名				郷土博物館運営事業				本年度担当課	文化財課		
								前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり					新規・継続	継続事業		
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり					実施計画・一般	一般事業		
	施策	02	歴史・文化資源の保存と継承					市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					任意・義務	任意の事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			実施方法	直営		
	一般	10	04	04	郷土博物館運営事業			事業分類	施設維持管理事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和58年度 ~					市長公約	該当なし
										総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 博物館法、佐野市立博物館条例											

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)													
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)									
郷土博物館の運営を行う。 入館者の受付や団体見学者の案内、収蔵資料の閲覧や文献資料複写の支援、入館料及び図録等の売払代金の徴収、広報紙等のPR等				・資料閲覧・撮影・複写等のサービス ・寄贈図書整理 ・寄贈資料の受入れ									
				活動指標			単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				資料閲覧・撮影・複写			件	65	28				
				広報紙等掲載回数			回	12	12				
図書整理冊数			冊	14,977	15,018								
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)													
入館者 市民 図書		対象指標			単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
入館者数					人	7,785	14,370						
市民人口					人	116,982	115,700						
収蔵図書数					冊	14,977	15,018						
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)													
目的	①見学者の利便を図り、利用者の研究を支援する。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	②博物館相互の連携による研究資料の蓄積を図る				資料閲覧・撮影・複写 / 入館者数		%	目標 実績	0.8 0.1				
					広報紙掲載回数		回	目標 実績	12 12				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)													
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。				上位成果指標			単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
博物館、化石館、伝承館の入館者数						人	目標 実績		55,500 24,976	36,905			
学校利用 (出前講座含む) 実績						人	目標 実績		4,100 4,086				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	986	0	0	0	0	
	一般財源	千円	104	870	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	1,090	870	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					需用費	516		
					使用料及び賃借料	232		
				役員費	111			
				報償費	12			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.17	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	1,239	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,090	2,109	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土博物館運営事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年11月の郷土博物館の開館と同時に始まる。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	国や地方公共団体の財政の悪化等により、博物館等の弱体化が進んでいる。また、公立博物館において指定管理者制度が導入されるなど、博物館の運営形態が多様化している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務の一部を委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
博物館が運営する基本的な事項であるため。		博物館が開館している間は、事業の休止・廃止は出来ない。博物館が閉館となった時に、事業は終了する。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業終了	
	中		○	* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 指定管理事業へ移行	
	小				
	成果向上余地				



## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土博物館協議会運営事業				本年度担当課	文化財課		
						前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業		
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業		
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営		
	一般	10	04	04	郷土博物館協議会運営事業	事業分類	審議会等運営事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和58年度 ~		市長公約	該当なし	
根拠法令・条例等		博物館法、佐野市立博物館条例						総合戦略	該当なし

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
博物館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、意見を述べる機関である郷土博物館協議会を年2回開催する。			○博物館協議会 (第1回) 令和4年10月27日開催 7人出席 (第2回) 令和5年3月28日開催 8人出席							
			活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
会議開催回数			回	2	2	2	2	2		
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
郷土博物館協議会 郷土博物館協議会委員			対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
郷土博物館協議会委員数			人		10	10	10	10	10	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
①事業が円滑で効果的に実施できるように、郷土博物館の運営に関して委員から貴重な意見や助言を聴く。			成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			意見・助言数		件	目標 実績	20 19	22 20	22	22
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。			上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			博物館、化石館、伝承館の入館者数		人	目標 実績	55,500 24,976	56,000 36,905	56,500	57,000
学校利用(出前講座含む)実績			人		目標 実績	4,100 4,086	4,150	4,200	4,250	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	84		99		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	84		99		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報酬	99						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.02		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		146		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	84		245		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土博物館協議会運営事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、博物館の運営や事業に関する諮問機関として、博物館協議会を設置した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	税金で運営される国公立博物館は、納税者による監視を受け、納税者への説明責任を果たすため、利用者や市民が加わる運営参画会議が不可欠ものとされる。また、人数の制限はあるものの、会議が一般市民に公開され、協議会を傍聴できるようになった。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
		博物館が開館している間は、博物館協議会は必要である。今後、博物館が指定管理者による管理が行われるにことにより、ますます、役割は重要になる。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土博物館企画展等開設事業				本年度担当課	文化財課	
						前年度担当課	文化財課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				事業 区 分	実施方法	
	一般	10	04	04	郷土博物館企画展等開設事業		事業分類	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和58年度 ~			
根拠法令・条例等		博物館法・佐野市立博物館条例						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）									
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）			令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
広く愛郷心の育成に資するため、佐野市の考古・歴史・民俗等に関する企画展や移動博物館等の展示会、記念講演会を開催する。			・第75回企画展「佐野の近代化と田中正造」（4/29～6/19、1,840名） ・第75回企画展記念講演会「野州石灰の近代化」（5/21、32名） ・栃木県立博物館地域移動博物館「貝づくし！～美しい貝、美味しい貝、とちぎの貝～」(7/30～9/4、1,704名) ・移動講座 「溶かしてピカピカ☆貝殻づくり」(8/11、12名) ・第76回企画展「古代三叢山周辺の生産遺跡と役所・寺院」						
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			企画展等開催延べ回数	回	6	9			
			企画展等入館者数	人	4,769	10,160			
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）									
市民及び市外からの入館者			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
市民人口			人		116,983	115,700			
企画展等入館者数			人		4,769	10,160			
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）									
郷土の考古・歴史・民俗等について、展示を通して理解してもらう機会を作る。			成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			企画展等入館者数/市民人口	%	目標				
					実績	4.1	8.8		
			目標						
			実績						
④結果（どのような結果に結びつきますか？）									
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
博物館、化石館、伝承館の入館者数			人	目標		55,500			
				実績	24,976	36,905			
			人	目標		4,100			
				実績		4,086			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	316	0	0	0	0	
	一般財源	千円	283	587	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	599	587	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					役員費	222		
					委託料	145		
				報償費	144			
				需用費	77			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.69	0	0		
	人件費計(B)	千円	0	5,028	0	0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	599	5,615	0	0		

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土博物館企画展等開設事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、広く愛郷心の育成に資するために開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	近年、生涯学習への関心が高まり、市民の参加型生涯学習意欲の高揚が見られるが、緊縮財政の中で経費の削減等が求められている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	様々な種類の企画展に取り組んだ。秋の企画展は令和元年度に中止となった中根東里展を実施し、大きな反響を生んだ。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
新型コロナウイルス感染拡大が収まったこともあるが、第76回企画展及び関連講座で多くの入館者があった。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	事業終了	
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中			指定管理事業へ移行	
	小			市民のニーズや博物館でおこなった調査研究の成果など、様々な企画展のテーマを検討すべきである。	
	大	中	小	成果向上余地	

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土博物館講座等開設事業				本年度担当課	文化財課	
						前年度担当課	文化財課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	04	04	郷土博物館講座等開設事業	事業分類	イベント等開催事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和58年度 ~			
根拠法令・条例等		博物館法・佐野市立博物館条例					市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)														
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)									
市民の教育・文化の向上を目指し、生涯学習の場として、子どもから高齢者まで利用してもらえるような魅力ある博物館活動を展開していくために、各種講座・講習会等を開催する。					7講座開設 ・古文書入門講座 ・民話を楽しもう ・立体きりおりがみ ・まが玉をつくらう ・田中正造に学ぶ ・石材の印作り ・とちぎの狛犬めぐり									
					1講座中止 ・展示解説ボランティア養成講座									
					活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
講座開催数		回	2	7										
受講者数		人	87	175										
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)														
市民受講者			対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
市民人口			人			116,982	115,700							
受講者数			人			87	175							
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)														
参加・体験型講座を通じて、郷土の考古・歴史・民俗等に対する理解と関心を高めてもらう。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
					受講者/市民人口		%	目標						
								実績	0.1	0.2				
								目標						
			実績											
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)														
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
					博物館、化石館、伝承館の入館者数		人	目標		55,500				
								実績	24,976	36,905				
					学校利用(出前講座含む)実績		人	目標		4,100				
			実績		4,086									

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	6		0		0		0		0	
	一般財源	千円	24		96		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	30		96		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報償費	96						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.11		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		802		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	30		898		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土博物館講座等開設事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、生涯学習の場として子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある博物館活動を展開していくために開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	生涯学習意欲の高揚に伴い、体験学習型講座が求められている。また、高齢化社会を迎え、生涯学習の必要性が益々増加している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	人気のある講座は受講の申し込みが殺到してすぐ定員を超えてしまうため、なかなか受講することができない。そのため、講座の回数を増やして欲しいとの要望がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中	○			
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土博物館学校利用推進事業				本年度担当課	文化財課			
						前年度担当課	文化財課			
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業			
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業			
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業			
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意の事業			
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				事業 区 分	実施方法		直営	
	一般	10	04	04	郷土博物館学校利用推進事業		事業分類		教育・指導事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成2年度 ~		市長公約		該当なし	
							総合戦略		該当なし	
根拠法令・条例等		博物館法・佐野市立博物館条例								

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）													
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）								
学校教育と博物館活動の連携を深めることを目的とし、学校の要請に応じて学習計画にあった適切な時期に博物館資料を見学して、学習効果を高めるとともに、郷土に対する理解を深めるために実施する。					・市内小学6年生の「歴史学習」での博物館利用（5～6月） ・市内小学4年生の「きょう土につくした人々」での博物館利用（10月～11月） ・市内小学3年生の「くらしのうつりかわり」での博物館利用（1月～2月）								
					活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					市内小学校6年生の利用校数		校	21	21				
					市内小学生4年生の利用校数		校	21	21				
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）													
市内小学3・4・6年生の児童					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					来館児童数		人	2,716	2,692				
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）													
佐野市の歴史や郷土の偉人についての知識を深め、郷土を誇りに思い愛する意識をもたせる。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					利用学校数/市内中学校数		%	目標 実績	100 98	100			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）													
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					博物館、化石館、伝承館の入館者数		人	目標 実績	55,500 24,976	36,905			
					ボランティア養成講座等の活動件数		件	目標 実績	470 98				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0		0.17		0		0		0
	人件費計(B)	千円	0		1,239		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		1,239		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土博物館学校利用推進事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	学校教育のよりよい援助活動ができるように平成元年度から準備を始め、平成2年度から開始した。その中で、県婦人教育連絡協議会（当時）佐野支部委員と市報を通じて公募に応募した女性たちによる「展示解説ボランティア」が結成され活動を開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	学習指導要領にも謳われているが、児童の学習内容習得のために学校と博物館との協力体制がますます重要視されている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	博物館において歴史資料を直接見たり、触れたり、体験したりすることができるため学習効果が高まるとの意見を各学校の先生たちからいただいている。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	新型コロナウイルス感染拡大が収まってきたので、来館して学習することができた。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	事業終了			
	中			* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	小			指定管理事業へ移行 臨時休館等で学校が博物館へ来れない場合、出張授業を検討する。			
		大	中	小	成果向上余地		



## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		日本博物館協会参画事業				本年度担当課	文化財課		
						前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業		
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業		
	施策	02	歴史・文化資源の保存と継承			市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進			任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法	直営	
	一般	10	04	04	日本博物館協会参画事業		事業分類	参画事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和58年度 ~			市長公約	該当なし
根拠法令・条例等		博物館法・佐野市立博物館条例							

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
日本博物館協会に加盟することにより、全国の博物館やその他の類似施設との会員相互の交流を深め、各種情報や協力を得ることで当館事業の発展を図る。				(市の活動) 日本博物館協会に負担金(30千円)を支出し、機関誌等を収集する。 (日本博物館協会の活動) 全国大会・全国博物館長会議・指導者研究協議会・講演会等を開催し、『博物館研究』や『全国職員録』等を発行し、会員に提供している。								
				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				機関誌収集数	部	12	12	12	12	12		
会議・研究会参加数	回	0	0	1	1	1						
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
郷土博物館職員 (参画対象団体) 日本博物館協会				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				対象職員数		人	3	3	3	3	3	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
目的	①館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。 ②関係博物館との連携・協力の緊密化を図る。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					参画で情報を集められた対象職員の割合		%	目標 100	100	100	100	100
	参画の意義を認める対象職員の割合		%	目標 100	100	100	100	100				
				実績 100	100							
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				博物館、化石館、伝承館の入館者数		人	目標 24,976	55,500	56,000	56,500	57,000	
				学校利用(出前講座含む)実績		人	目標 4,086	4,100	4,150	4,200	4,250	

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	30	30	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	30	30	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	30		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.01	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	73	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	30	103	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	日本博物館協会参画事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館の開設準備中に、他館の活動状況や最新情報を収集し、館の運営に活用するために団体に入会したことから開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	指定管理者制度や独立行政法人制度が導入可能となり、博物館の運営形態が多様化している。また、国や地方公共団体の緊縮財政により、博物館や美術館等の弱体化が進み、苦しい運営環境に苦慮している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		栃木県博物館協会参画事業				本年度担当課	文化財課
						前年度担当課	文化財課
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意の事業
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営
	一般	10	04	04	栃木県博物館協会参画事業	事業分類	参画事業
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和58年度 ~		
根拠法令・条例等		博物館法・佐野市立博物館条例					

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
栃木県博物館協会で開催される研究会・研修会・視察・見学会等に積極的に参加することによって、会員相互の交流を深め、各種の情報や協力を得ることで、当館事業の発展を図る。			(市の活動) ・栃木県博物館協会に負担金(5千円)を支出。  博物館文化財セミナー、会議等出席 (団体の活動) ・総会・研究会・講演会・視察研修会を開催し、機関誌を発行している。							
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
			機関誌収集数	部	1	1	1	1	1	
会議・研究会参加数	回	0	0	1	1	1				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
郷土博物館職員 (参画対象団体) 栃木県博物館協会			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
			対象職員数	人	3	3	3	3	3	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
目的	①館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。			成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	②教育普及活動及び展示等に関する技術の向上を図る。			参画で情報を集められた対象職員の割合	%	目標 100	100	100	100	100
				参画に意義を認める対象職員の割合	%	実績 100	100	100	100	100
				参画に意義を認める対象職員の割合	%	目標 100	100	100	100	100
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	目標	55,500	56,000	56,500	57,000	
			学校利用(出前講座含む)実績	人	実績	24,976	36,905			
					目標	4,100	4,150	4,200	4,250	
					実績	4,086				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	5	5	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	5	5	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	5		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.01	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	73	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5	78	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	栃木県博物館協会参画事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館の開設準備中に、他館の活動状況や最新情報を収集し、館の運営に活用するために団体に入会したことから開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	指定管理者制度や独立行政法人制度が導入可能となり、博物館の運営形態が多様化している。また、国や地方公共団体の緊縮財政により、博物館や美術館等の弱体化が進み、苦しい運営環境に苦慮している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土資料保存三好館維持管理事業				本年度担当課	文化財課		
						前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業		
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業		
	施策	02	歴史・文化資源の保存と継承			市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進			任意・義務	任意の事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法	直営	
	一般	10	04	04	郷土資料保存三好館維持管理事業		事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成16年度 ~			市長公約	該当なし
根拠法令・条例等		博物館法・佐野市立博物館条例							
				事業期間				総合戦略	該当なし

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)													
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
郷土資料保存三好館を維持管理し、利用者に良好な環境を提供する。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の維持管理に係る消耗品の購入、光熱水費の支払</li> <li>・火災保険に加入</li> <li>・消防設備、し尿浄化槽の保守点検業務の委託(年間)</li> <li>・植栽剪定</li> </ul>								
					活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					管理・保守点検件数	件	2	2	2	2	2		
修繕件数	件	1	0	1	1	1							
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)													
入館者 施設・設備 収蔵資料		対象指標			単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
		入館者数		人	50	53	55	55	55				
		修繕必要箇所		箇所	0	0	1	1	0				
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)													
入館者 施設・設備 収蔵資料		成果指標			単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
		良好に保存された展示品の割合		%	目標	100	100	100	100	100			
					実績	100	100						
				目標									
		実績											
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)													
市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。					上位成果指標			単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					博物館、化石館、伝承館の入館者数		人	目標		55,500	56,000	56,500	57,000
					学校利用(出前講座含む)実績		人	実績	24,976	36,905			
				目標		4,100	4,150	4,200	4,250				
				実績		4,086							

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	200		260		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	200		260		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	167						
					需用費	76						
				役務費	18							
人件費	職員従事工数	人工	0		0.01		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		73		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	200		333		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土資料保存三好館維持管理事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧田沼町が設置した郷土資料保存三好館を、平成17年の合併時に引継ぎ、郷土博物館の別館として位置づけられたことに始まる。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	企業利益の低迷や自治体の財政難に伴い、私立・公立の博物館とも経営合理化が求められ、休館・閉館の事例も見られる。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中	○			
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		郷土資料保存三好館運営事業				本年度担当課	文化財課			
						前年度担当課	文化財課			
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業			
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業			
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業			
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意的事業			
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営			
	一般	10	04	04	郷土資料保存三好館運営事業	事業分類	施設維持管理事業			
事業計画		事業期間		平成16年度 ~				市長公約	該当なし	
根拠法令・条例等		博物館法・佐野市立博物館条例							総合戦略	該当なし

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
指定文化財である郷土資料保存三好館を公開して、郷土の歴史・民俗等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚や文化の振興を図る。 郷土資料保存三好館の開館事務を三好地区町会長に委託する。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営業務を三好地区町会長に委託</li> <li>・戸室・船越・岩崎地区のボランティア6人が交代で開館業務を行う。</li> <li>・定時開館：毎月第2・第4日曜日(8月・9月は、新型コロナウイルスの影響で休館)</li> </ul>							
					活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					開館日数	日	20	24	24	24	24	
ボランティアの延活動者数	人	40	48	48	48	48						
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
①入館者 ②地元自治会(ボランティア)					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					入館者	人	50	53	55	55	55	
					ボランティアの延活動者数	人	40	48	48	48	48	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
地元自治会との協働により、三好館の管理運営を行い、見学者の利便を図る。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					入館者/見学希望者	%	目標	100	100	100	100	100
						実績	100	100				
					開館日数/定時開催日数	%	目標	100	100	100	100	100
実績	83	100										
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
市民や児童生徒が歴史・文化資源を継承し郷土を育む人材を養成する。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					ボランティア養成講座等の活動件数	件	目標		470	480	490	500
						実績		98				
						目標						
⑤結果 (どのような結果に結びつきますか?)												

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	160		191		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	160		191		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	191						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.02		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		146		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	160		337		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	郷土資料保存三好館運営事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧田沼町が設置した郷土資料保存三好館を、平成17年の合併時に引継ぎ、郷土博物館の別館として位置づけたことに始まる。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	合併時と比べて、管理運営を委託している地元自治会のボランティアの確保が難しくなっている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			



## 事務事業マネジメントシート

事務事業名				葛生化石館維持管理事業				本年度担当課	文化財課		
								前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり					新規・継続	継続事業		
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり					実施計画・一般	一般事業		
	施策	02	歴史・文化資源の保存と継承					市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	04	04	葛生化石館維持管理事業				事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成14年度 ~					市長公約	該当なし
										総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 博物館法、佐野市博物館条例											

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
葛生化石館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、更に化石館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。 ・展示室照明器具類維持 ・常設展示動産保険の加入 ・展示室くん蒸及び環境調査業務委託 ・空調及び換気設備保守点検業務の委託 ・化石館所有車を維持管理する				活動指標			単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				業務委託件数	件	2	2	2	2	2		
				保守点検回数	回	2	2	2	2	2		
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
化石館の施設・設備 収集資料 市民及び市外からの入館者				対象指標			単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				施設面積	m <sup>2</sup>	778	778	778	778	778		
				入館者数	人	11,787	16,606	23,800	24,000	24,200		
				収集資料数	点	2,149	2,201	2,220	2,240	2,260		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
施設・収集資料の良好な維持管理を図る。入館者が不都合なく安全に利用する。				成果指標			単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				施設トラブル件数	件	目標	0	0	0	0	0	
						実績	0	0				
				適切な収集件数/収集資料総数	%	目標	100	100	100	100	100	
						実績	100	100				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。				上位成果指標			単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	目標	90	90	90	90	90	
						実績	94.9	94.4				
						目標						
						実績						

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	2,355	1,485	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	2,355	1,485	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	1,012		
					需用費	325		
				役務費	148			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.26	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	1,895	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,355	3,380	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生化石館維持管理事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが、平成14年に改装し、化石資源（葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など）を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年度に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。また当館は収蔵庫が少なく、資料の寄贈等が年々増加するため苦慮している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ館の存在を知られていないので、PRすべきであるという声がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
施設トラブルがなかった			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
施設や資料の点検、温度・湿度管理を定期的に実施した。		施設や資料の点検、温度・湿度管理を引き続き定期的に実施する。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		葛生化石館運営事業				本年度担当課	文化財課	
						前年度担当課	文化財課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				事業 区分	新規・継続	継続事業
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり					実施計画・一般	一般事業
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承					市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	04	04	葛生化石館運営事業	事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成14年度 ~			
根拠法令・条例等		博物館法、佐野市博物館条例						

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）																	
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）												
葛生化石館を運営していくための事業。 資料の管理、整理、学芸業務補助のため会計年度任用職員の任用を行っている。他に資料寄贈者などへの謝礼、事務用経費、ボランティア活動、展示用パネルや標本作製などを行っている。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計年度任用職員による標本管理、事務補助</li> <li>・ボランティアによる事業・講座補助、勉強会、調査研究</li> <li>・パソコン及び周辺機器、デジタルフルカラー複合機等の借上げ、各種事務用消耗品購入</li> </ul>												
										活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
										収蔵資料数	点	2,149	2,201	2,220	2,240	2,260	
入館者数	人	11,787	16,606	23,800	24,000	24,200											
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）																	
市民及び市外からの入館者 展示資料（常設展）					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)					
					市の人口		人	116,982	115,700								
					展示資料数		点	635	611	635	635	635					
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）																	
より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。 入館者に利用しやすい環境を整える。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度					
					入館者数/市の人口		%	目標	15	15	15	15	15				
								実績	10.1	14.4							
					広報紙、情報誌等掲載回数		回	目標	30	30	30	30	30				
実績	41	44															
④結果（どのような結果に結びつきますか？）																	
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度					
					佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%	目標	90	90	90	90	90				
								実績	94.9	94.4							
					目標												
実績																	

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	28		60		0		0		0	
	一般財源	千円	3,422		3,453		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	3,450		3,513		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報酬	1,923						
					使用料及び賃借料	407						
					職員手当等	383						
					共済費	383						
					委託料	218						
					需用費	104						
			役務費	92								
		報償費	4									
人件費	職員従事工数	人工	0		0.31		0		0		0	
人件費計(B)	千円	0		2,259		0		0		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	3,450		5,772		0		0		0		

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生化石館運営事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが、平成14年に改装し、化石資源（葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など）を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。開設当初からボランティアが事業に協力している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ知られていないのでPRすべきであるという声がある。初めての来館者から、思ったより内容がすばらしいので驚いた。楽しかった等好評を得ている。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
掲載回数が増えた。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
情報誌などの取材は積極的に対応したが、こまめなホームページ更新ができなかった。		こまめなホームページ更新を心がける。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名				葛生化石館企画展等開設事業				本年度担当課	文化財課		
								前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02		新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業		
	政策	03		歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業		
	施策	02		歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02		歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意の事業		
予算 科目	会計	款	項	目 予算事業名				実施方法	直営		
	一般	10	04	04	葛生化石館企画展等開設事業				事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成14年度 ~				市長公約	該当なし	
									総合戦略	該当なし	
根拠法令・条例等 博物館法、佐野市博物館条例											

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）											
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
常設展とは別に、短期間で自然や化石、地質に関するものを企画展示する。 これはテーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激するため、保管する膨大な収蔵品や他館の資料を借用して行う。 さらに企画展の関連講座を夏頃実施する。				・企画展 『歯の進化の話～今も昔も歯が命～』展 7月16日(土)～11月23日(水・祝) [109日間] ・企画展 『第17回新着標本展』 令和5年1月14日(土)～3月31日(金) [63日間] ・企画展関連講座 講演会『歯の進化の話～今も昔も歯が命～』10月2日(日) 講師 国立科学博物館 木村由莉研究員							
				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				開催期間入館者数	人	9,916	13,721	20,000	21,000	21,300	
				企画展開催数	回	2	2	2	2	2	
講演会参加者数		人	0	45	50	50	50				
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）											
市民及び市外からの入館者				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
市の人口				人	116,982	115,700					
開催期間入館者数				人	9,916	13,721					
来館者数				人	11,787	16,606	20,000	21,000	21,300		
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）											
より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				開催期間入館者数/市民数	%	目標	10	10	10	10	10
						実績	8.5	11.9			
				期間中入館者前年度比	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	139.8	138.4					
④結果（どのような結果に結びつきますか？）											
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	目標	90	90	90	90	90
						実績	94.9	94.4			
						目標					
				実績							

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)		
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0		
	県支出金	千円	0		0		0		0		0		
	地方債	千円	0		0		0		0		0		
	その他	千円	0		0		0		0		0		
	一般財源	千円	208		133		0		0		0		
	事業費計(A)	千円	208		133		0		0		0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
					委託料	50							
					報償費	30							
				需用費	30								
				役務費	16								
		使用料及び賃借料	7										
人件費	職員従事工数	人工	0		0.28		0		0		0		
	人件費計(B)	千円	0		2,040		0		0		0		
トータルコスト(A)+(B)		千円	208		2,173		0		0		0		

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生化石館企画展等開設事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが、平成14年に改装し、化石資源（葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など）を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ知られていないのでPRすべきであるという声がある。また、企画展関連の講演会の開催を楽しみにしているとの声も有る。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
入館者数が増えた			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
情報誌などの取材に積極的に対応したが、こまめなホームページ更新はできなかった。		こまめなホームページ更新を心がける。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名				葛生化石館講座等開設事業				本年度担当課	文化財課			
								前年度担当課	文化財課			
政策 体系	基本目標	02		新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業			
	政策	03		歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業			
	施策	02		歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業			
	基本事業	02		歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意の事業			
予算 科目	会計	款		項目				事業 区 分	実施方法		直営	
	一般	10	04	04	葛生化石館講座等開設事業				事業分類	施設維持管理事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間		平成14年度 ~		市長公約	該当なし			
								総合戦略	該当なし			
根拠法令・条例等											博物館法、佐野市博物館条例	

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような体験講座等を企画開催する。 受講者は、広報・ホームページ等を通じて募集した。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施した。 材料費等が生じるものは参加者負担金を徴収した。  企画→参加者募集→事前準備→講座実施				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				受講者数		人	267	656	660	670	680	
				自主講座開設数		回	3	6	5	5	5	
				出張講座		回	3	8	8	8	8	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
市民 受講者				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				市の人口		人	116,982	115,700				
				受講者数		人	267	656	660	670	680	
				来館者数		人	11,787	16,606	23,800	24,000	24,200	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
市民の文化教養を高め、学習意欲の向上を目指す。より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				受講者数/市の人口		%	目標	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
						実績	0.2	0.6				
				受講者数前年対比		%	目標	100	100	100	100	100
実績	95	245.7										
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%	目標	90	90	90	90	90
						実績	94.9	94.4				
							目標					
			実績									

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	23		59		0		0		0	
	一般財源	千円	34		43		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	57		102		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					需用費	94						
					役務費	8						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.25		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		1,822		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	57		1,924		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生化石館講座等開設事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成16年から専任の学芸員が配属になり、平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった頃から、講座を積極的に実施するようになった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、講座等の教育事業が開始した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	参加してよかった。楽しかった。今後も開催して欲しいという要望（アンケートやメール）が多数ある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
受講者数が増えた			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
広報紙だけでなくホームページも活用した。		こまめなホームページ更新を心がける。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	大 中 小 成果向上余地				



## 事務事業マネジメントシート

事務事業名				葛生伝承館維持管理事業				本年度担当課	文化財課			
								前年度担当課	文化財課			
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり					新規・継続	継続事業			
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり					実施計画・一般	一般事業			
	施策	02	歴史・文化資源の保存と継承					市単独・国県補助	市単独事業			
	基本事業	02	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					任意・義務	任意の事業			
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					事業区分	実施方法	直営
	一般	10	04	04	葛生伝承館維持管理事業					事業区分	事業分類	施設維持管理事業
事業計画		単年度繰り返し			事業期間	平成16年度～					市長公約	該当なし
											総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等											博物館法、佐野市博物館条例	

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)													
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)									
葛生伝承館の施設を維持管理する。 ・光熱水費の支出 ・建物、設備等の修繕実施 ・建物の損害共済保険への加入 ・館内くん蒸の実施 ・清掃、警備の委託 ・空調設備保守点検業務の委託				・清掃、警備 (長期)、空調設備、消防設備の保守点検 ・年1回のくん蒸実施 (6月29日～7月2日に密閉くん蒸による収蔵資料等の殺虫、殺卵及び殺カビ) ・建物損害共済保険への加入 ・屋外給水バルブ漏水修繕									
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
				業務委託件数	件	5	5	5	5	5			
				保守点検回数	回	7	7	7	7	7			
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)													
伝承館の施設・設備 収蔵資料 市民及び市外からの入館者				対象指標			単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				施設面積			m <sup>2</sup>	323	323	323	323	323	
				入館者数			人	5,404	5,929	8,500	8,600	8,700	
				収蔵資料数			点	791	851	855	860	860	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)													
施設を安全で良好に維持管理する。 利用者が不都合なく安全に利用する。				成果指標			単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				施設が安全で良好に使われた割合			%	目標	100	100	100	100	100
								実績	100	100			
								目標					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)													
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。				上位成果指標			単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合			%	目標	90	90	90	90	90
								実績	94.9	94.4			
								目標					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	4,162	4,318	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	4,162	4,318	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	2,515		
					需用費	1,782		
					役務費	21		
人件費	職員従事工数	人工	0	0.59	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	4,299	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,162	8,617	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生伝承館維持管理事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館、平成17年合併により佐野市郷土博物館別館となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年度から学芸員を配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。バリアフリーの建築であるが、収蔵庫が狭い施設である。開設後17年を経過し、施設や設備の修繕が増えてきた。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	館内がきちんと整理整頓されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
施設点検をこまめに行う。		施設点検を引き続きこまめに行う。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		葛生伝承館運営事業				本年度担当課	文化財課	
						前年度担当課	文化財課	
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	02	歴史・文化資源の保存と継承			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進			任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業 区分	
	一般	10	04	04	葛生伝承館運営事業		実施方法	直営
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成16年度 ~		事業分類	施設維持管理事業
							市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 博物館法、佐野市博物館条例								

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
葛生伝承館を運営していくための事業。資料の収集整理、学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。他に収集資料の修繕や受付業務の委託、資料提供などへの謝礼、調査などにかかる旅費、事務用経費、展示品の修繕などを行っている。				<ul style="list-style-type: none"> <li>会計年度任用職員による事務補助、施設管理補助、受付業務補助</li> <li>受付業務委託</li> <li>パソコン及び周辺機器、デジタルフルカラー複合機借上げ、各種事務用消耗品購入</li> </ul>						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
		入館者数	人	5,404	5,929	8,500	8,600	8,700		
		業務委託件数	件	2	2	2	2	2		
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
市民及び市外からの入館者 展示資料				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				市の人口	人	116,982	115,700			
				展示資料数	点	254	259	260	260	260
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
入館者に利用しやすい施設を整える。展示資料を見学することにより地域の伝統・文化を知ってもらう。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				入館者数/市の人口	%	目標 5	5	5	5	5
						実績 4.6	5.1			
						目標				
						実績				
④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	目標 90	90	90	90	90
						実績 94.9	94.4			
						目標				
						実績				

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	7	9	0	0	0	
	一般財源	千円	6,405	6,479	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	6,412	6,488	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	3,377		
					報酬	1,923		
				職員手当等	385			
				共済費	384			
				使用料及び賃借料	286			
				役務費	113			
		需用費	21					
人件費	職員従事工数	人工	0	0.2	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	1,457	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	6,412	7,945	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生伝承館運営事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館、平成17年合併により佐野市郷土博物館別館となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年度から学芸員を配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。バリアフリーの建築であることや展示物が郷土芸能など親しみやすいため、老人福祉施設の入館者が増えている。収蔵庫が狭いため寄贈、寄託の受け入れは困難である。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	案内が親切、身近にこのような施設が有り良いなどの声がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
入館者数が増えた。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
広報紙だけでなくホームページも活用した。		こまめなホームページ更新を心がける。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	大 中 小 成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		葛生伝承館企画展等開設事業				本年度担当課	文化財課		
						前年度担当課	文化財課		
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業		
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業		
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意の事業		
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営		
	一般	10	04	04	葛生伝承館企画展等開設事業	事業分類	施設維持管理事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成16年度 ~		市長公約	該当なし	
根拠法令・条例等		博物館法、佐野市博物館条例						総合戦略	該当なし

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方） 県指定有形民俗文化財「吉澤人形頭」、県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」関連資料を中心に、佐野市に伝わる神楽・牧歌舞伎・節句人形などの伝統芸能や民俗資料を企画展で展示、紹介する。			令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雛人形展」 4月1日(金)～4月6日(水) [5日間]</li> <li>・「神楽の面と衣裳展」 4月19日(火)～6月19日(日) [53日間]</li> <li>・「吉澤人形頭展」 7月9日(土)～9月25日(日) [67日間]</li> <li>・「牧歌舞伎展」 10月8日(土)～令和5年1月22日(日) [83日間]</li> <li>・「雛人形展」 令和5年2月4日(土)～3月31日(金) [46日間]</li> </ul>							
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
企画展開催期間入館者数	人	5,404	5,929	8,500	8,600	8,700				
企画展開催期間日数	日	213	254	254	254	254				
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
市民及び市外からの入館者			対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			市の人口		人	116,982	115,700			
			企画展開催期間入館者数		人	5,404	5,929	8,500	8,600	8,700
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
多くの優れた佐野市の文化や芸能に関する資料を集め、より多くの人に鑑賞してもらえるようにする。			成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			企画展開催期間入館者数/市の人口		%	目標 5	5	5	5	5
			入館者数前年対比		%	実績 4.6	5.1			
						目標 100	100	100	100	100
						実績 157.9	109.7			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。			上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%	目標 90	90	90	90	90
						実績 94.9	94.4			
						目標				
						実績				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	208		157		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	208		157		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	153						
					需用費	4						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.99		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		7,214		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	208		7,371		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生伝承館企画展等開設事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館、平成17年合併により佐野市郷土博物館別館となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。牧歌舞伎、吉澤人形頭だけではリピーターを呼ぶことは難しいので、新しい企画を取り入れていく必要がある。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	継続してさまざまな展示を行って欲しい、文楽や歌舞伎を見てみたいなどの市民の声がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	市民に対し広報宣伝を積極的に行い、更なる周知を図った。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
入館者数が増えた			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
広報紙だけでなくホームページも活用した。		こまめなホームページ更新を心がける。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性				(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策				
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。								
	中											
	小											
		大	中	小	成果向上余地							

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		葛生伝承館講座等開設事業				本年度担当課	文化財課	
						前年度担当課	文化財課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	03 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	02 歴史・文化資源の保存と継承				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	02 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	04	04	葛生伝承館講座等開設事業	事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成16年度 ~			
根拠法令・条例等		博物館法、佐野市博物館条例						

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）													
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）								
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような体験講座等を企画開催した。受講者は、広報等を通じて募集した。また、材料費等は実費を負担金として徴収している。  講座の企画→参加者募集→講座の事前準備→講座実施					・こどもの日民話語り（5月5日） ・企画展「神楽の面と衣裳展」関連講座「太々神楽の復活と地域」（5月22日） ・びゅんびゅんゴマを作ろう（7月29日） ・羽子板を彩ってみよう（11月）※ ・万華鏡づくり（12月）※ ※新型コロナウイルス感染症の影響で中止								
										活動指標		単位	R3年度 (実績)
					講座等開催数		回	1	3	4	4	4	
					受講者数		人	25	85	60	60	60	
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）													
受講者 市民					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					受講者数		人	25	85	60	60	60	
					市の人口		人	116,982	115,700				
					入館者数		人	5,405	5,929	8,500	8,600	8,700	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）													
郷土の関わりのある伝統・文化・芸能に対し、興味を持ってもらう。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					講座を面白いと感じた ／アンケート回答者数		%	目標	80	80	80	80	80
								実績	83.3	90.7			
								目標					
			実績										
④結果（どのような結果に結びつきますか？）													
市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%	目標	90	90	90	90	90
								実績	94.9	94.4			
								目標					
			実績										

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	1		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	1		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0		0.08		0		0		0
	人件費計(B)	千円	0		583		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1		583		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	葛生伝承館講座等開設事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館、平成17年合併により佐野市郷土博物館別館となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。館内は手狭なため講座は限られ、隣接の公民館を会場として、工夫しながら講座を開催している。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	子どもも楽しめるような体験型イベントを実施して欲しいとの意見がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	市民に対し広報宣伝を積極的に行い、更なる周知を図った。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
アンケート結果が改善した。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
分かりやすく説明した。		分かりやすい説明を心がける。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施）			
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中						
	小						
		大	中	小			
		成果向上余地					



# 事務事業マネジメントシート

事務事業名	田中正造旧宅一般公開支援事業				本年度担当課	文化財課	
					前年度担当課	文化財保護係	
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	02	歴史・文化資源の保存と継承			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	02	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		
	一般	10	04	05	田中正造旧宅一般公開支援事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成5年度 ~			
根拠法令・条例等	佐野市田中正造旧宅管理運営費補助金交付要綱、佐野市田中正造旧宅入場料補助金交付要綱						

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
田中正造翁の旧宅整備事業が平成5年度に完了し、同年11月、一般公開事業が始まった。公開、維持および管理をしている一般財団法人小中農教倶楽部に対し、佐野市が支援を行い、史跡を保存し、翁の偉業を広く、かつ永く後世に伝えることを目的とする。 また、説明ボランティア団体育成のための支援を行う。				(一財) 小中農教倶楽部への管理運営費補助金及び入場料補助金の交付事務、県指定文化財「田中正造旧宅」の維持管理に関する指導及び助言、県との連絡調整。						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
		田中正造旧宅開館日数	日	174	203	210	210	210		
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
① (一財) 小中農教倶楽部		対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
② 田中正造旧宅見学者		田中正造旧宅入場数		人	612	861	1,800	2,000	2,200	
③ 旧宅説明ボランティア団体		無料入場者数		人	208	385	900	1,000	1,100	
		説明ボランティア人数		人	14	14	20	25	30	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
・ 田中正造翁の偉業を後世に伝承 ・ 田中正造旧宅一般公開運営ののさらなる健全化 ・ 説明ボランティア団体の活動の充実		成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		「田中正造」を知っている市民の割合	%	目標	94	95	95	95.5	96	
				実績	94.9	94.4				
		説明ボランティア団体の視察研修実施回数	回	目標	1	1	1	1	1	
				実績	0	0				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
・ 歴史・文化資源について、学び理解する。 ・ 歴史・文化資源を継承し、郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		博物館・化石館・伝承館の入館者数		人	目標	57,000	55,500	56,000	56,500	57,000
					実績	24,976	36,905			
		ボランティア養成講座等の活動件数		件	目標	500	470	480	490	500
					実績	59	90			

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	741	978	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	741	978	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	978		
	人件費	職員従事工数	人工	0.18	0.06	0	0	0
	人件費計(B)	千円	1,319	437	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,060	1,415	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	田中正造旧宅一般公開支援事業	本年度担当課	文化財課
		前年度担当課	文化財保護係

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成5年に県指定史跡「田中正造旧宅」の保存整備事業が完了し、田中正造生家保存整備調査研究委員会の「田中正造邸宅保存整備に関する最終答申書」などにに基づき、同年11月から本事業が始まった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	（一財）小中農教倶楽部による公開事業運営の収入源は補助金と入場料のみであり、不足分は財団の流動財産を取り崩して公開事業を行っている。また（一財）小中農教倶楽部は、平成26年4月1日付で財団法人から一般に財団法人へ移行した。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	田中正造旧宅の運営に関しては、入場料の収入だけでは賄えない部分が大きいため、旧宅の公開事業で田中正造翁の業績を後世に伝えてゆくためには、今後も継続的な支援としての補助が必要であるとの意見を（一財）小中農教倶楽部より伺っている。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	田中正造旧宅を広く市内外へ向けて発信するために、佐野市ホームページなど広報手段を活用した。また、補助金の交付のための書類とその期限などを整理し、コロナ禍による入場者減の状況下においても適切な執行ができるよう努めた。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上した
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
田中正造旧宅に関して、市民の関心等の意識を高め、また、事業をより健全に運営できる様つなげていく上では、市のHPや広報誌を活用することによって、低コストで効果的な宣伝を実施できる。			成果向上余地がある程度ある
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>田中正造の知名度については、前年度と同様の結果であった。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策により、説明会ランティアの視察研修を中止したため達成できなかった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>田中正造旧宅に関して、市のHPや広報誌を活用し、低コストで効果的な宣伝を行い、市民の関心を高める。</li> <li>説明会ランティアの視察研修を実施する。</li> </ul>	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業のやり方改善（成果向上の見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 ・田中正造旧宅に関して、市のHPや広報誌を活用し、低コストで効果的な宣伝を行い、市民の関心を高める。 ・説明会ランティアの視察研修を実施する。	・田中正造旧宅の積極的なPR（HP） ・郷土博物館とタイアップし、田中正造ツアー（仮称）の実施し訪問先に「旧宅」を加える。
	中		○		
	小				
大      中      小 成果向上余地					